

第5回若手研究者のための薬理学セミナー

関西医科大学 稲垣千代子

第2シリーズを迎えたこのセミナーの主題は「脳」です。今回は「脳と病気」のタイトルで、特に難病とされる変性性中枢神経疾患の病態や治療法開発の最前線を解りやすく解説し、みなさんと共に今後の可能性を考えようという企画です。

高齢者に歩行困難や無動症を引き起こすパーキンソン病、痴呆症状が先行して社会的な問題にもなりつつあるアルツハイマー病、狂牛病やクロイツフェルト・ヤコブ病に関連するプリオン病、また神経細胞のコレステロール蓄積が引き起こすニーマン・ピック病、などをとりあげて、第一線の研究者にその臨床症状、病理学的特徴、生化学的解析結果、さらにはこれらの知見から考えられる予防や治療の可能性について紹介して頂くことにしました。しかし、これらは全て神経の変性を伴う病気で根本的な治療は困難であるのが実情です。薬物などの化学物質で予防や治療ができる可能性と共に、神経細胞そのものを新たに補う、という新しい可能性が芽生えてきました。神経幹細胞は、脳の一部に存在する未分化状態の細胞で、適切な細胞環境を与えることによりこれを神経細胞へと分化させ、失われた神経細胞とその機能を補おうという計画のもとに研究が進められています。困難な神経難病の治療に夢を与える方策の一つとして、神経幹細胞研究の最前線についても紹介して頂くことにしました。

研究領域の異なる若手研究者がわずかなヒントから思わぬ研究の発展や展開を成し遂げる、こんなことも期待しながらこのセミナーを企画しています。

